船舶事故等調査報告書

平成22年4月22日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第250号
事故等種類	沈没
発生日時	不明（平成21年10月8日11時00分ごろ、神奈川県葉山町港湾管理事務所の職員が本船の沈没に気付いた。）
発生場所	神奈川県葉山町葉山港（新港） 葉山港A防波堤灯台から真方位145° 180m付近（概位 北緯35°17.0′ 東経139°33.0′）
事故等調査の経過	平成21年10月9日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）を指名した。
事実情報	
船種船名、総トン数	警備艇 はやま、12トン
船舶番号、船舶所有者等	240-40311 神奈川、内閣府
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	船体外板に破口、機関、電気系統、航海計器等に濡れ損
事故等の経過	<p>本船は、平成21年10月6日、台風第18号の接近に備え、葉山港（新港）の南部に設置された楕形のポンツーンに船首を東方に向けて入船着けとした。</p> <p>船長は、フォアラインとして直径24～32mmのロープ5本を前方のコンクリート製護岸及びポンツーンに、アフトラインとして直径25～30mmのロープ5本を右舷後方のA防波堤及び後方の海底に這わせてあるアンカーチェーンに、ブレストラインとして直径24～32mmのロープ4本を左方のポンツーンに、スプリングラインとして直径24～32mmのロープ6本を左方のポンツーンにそれぞれ繋いだうえ、全ての開口部を閉鎖した状態で本船を係留した。</p> <p>船長は、翌日さらに各ラインを1本ずつ増し取りした。</p> <p>港湾管理事務所の職員は、10月8日11時00分ごろ本船の沈没に気付いた。</p>
気象・海象	<p>気象： 10月8日07時00分～11時00分の観測値は、次のとおりであった。</p> <p style="padding-left: 2em;">天気 雨のち曇り、風向 南から南西に変化、風速 10.0～18.3m/s、最大瞬間風速 19.5m/s（07時29分）</p> <p>海象： 事故当時の潮汐は、次のとおりであった。</p> <p style="padding-left: 2em;">高潮時刻 07時22分、潮高 142cm 低潮時刻 12時44分、潮高 87cm</p> <p style="padding-left: 2em;">10月8日09時00分における相模湾沿岸の波高 約7m、なお、石廊崎沿岸波浪計では、07時00分に有義波高約10.50m、有義波周期約14.5sが観測された。</p> <p>葉山港（新港）における観測情報：</p> <p style="padding-left: 2em;">事故当時の気象及び海象は、天気 曇りときどき雨、風向 南西、風速 平均22～23m/s、最大瞬間風速 約32m/s（08時30分ごろ）で、07時ごろから強風となり、南西からの波が10時ごろまで港</p>

	<p>の南西側にあるA防波堤を越えて港内に流れ込んだほか、07時30分～08時30分の間に約3回港内の海面がポンツーンの係留杭頂部まで上昇した。</p> <p>警報及び注意報： 横浜地方気象台は、神奈川県三浦半島地域に対し、10月7日10時00分大雨、強風及び波浪注意報を発表し、翌8日02時42分大雨、暴風、波浪等の各警報及び高潮等の各注意報に切り替えた。</p>	
<p>その他の事項</p>	<p>葉山港（新港）は、陸岸から北西方に伸びるA防波堤と陸岸から南西方に伸びる防波堤とで港口を形成し、北西方に向けて開口している。</p> <p>A防波堤は、略最低低潮面からの高さが約7m、幅約8mで、外側に箱状の消波ブロックがある。</p> <p>本線係留場所付近の損害状況は、次のとおりであった。</p> <p>(1) フォアラインをとっていたコンクリート製護岸（海面からの高さ約1.7m）の金属製手すり（高さ約1.2m）が折れ曲がり、護岸の手前側にあるポンツーン前縁部に本船の赤い船底塗料が付着していたほか、同ポンツーン上の金属製ビット2個が折損していた。</p> <p>(2) ブレストラインをとっていたポンツーンが折れて2分されていた。</p>	
<p>分析</p>	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、葉山港（新港）内で係留中、台風の接近に伴って生じた波浪が防波堤を越える状況となり、船体が移動したため、ポンツーンなどに衝突して船体外板各部に破口を生じ、海水が船内に流入して浮力を失い、沈没したものと考えられる。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が台風接近に備えて葉山港（新港）内で係留中、波浪が防波堤を越える状況となり、船体が移動したため、ポンツーンなどに衝突して外板に破口を生じて船内に海水が流入し、浮力を失って沈没したことにより発生したものと考えられる。</p>	